

第 1 回検討委員会で出た主な質問・意見と対応

No.	主な質問・意見	対応方針
1	コミュニティスクールは大事な可能性をたくさん持っている政策であるが、その前提に学校と地域の信頼関係がないとやっても意味がない	学校支援本部を設置することにより、地域のボランティアが学校へと入りやすい環境が整ってきていると思われ、学校と地域の協働が進んできていると考えています
2	地域拠点施設というのはどういうものをイメージしているのか、合意をしておかないと学校との含蓄が出てくると思うので、そうしたイメージも共有しておくことが大事	資料 2 に補足説明を記載しています 基本的には、小学校とコミュニティ施設（貸館、高齢者施設、児童館、学童クラブ、図書館、その他施設）が同一敷地に立地している施設をイメージしています ただし、コミュニティ施設は、各拠点を整備する時点で地域の実情に合わせて何が入るかは詳細な検討を行うことになると考えています また、運営についてもどのようなスキームが有効化は今後検討することになりますが、学校とコミュニティ施設の運営者は密なコミュニケーションをとり、互いの施設の連携が強化される状態が望ましいと考えています
3	保護者も実際には負担になっている、やってくれる方は篤志の志のある方、リタイヤされた方で、地域として機能しているかと疑問もある	拠点施設（≡清瀬らしいコミュニティスクール）の運営スキームについては、別途検討していく必要があると考えています
4	保護者の負担軽減が必要	
5	学校支援本部は、教職員の異動などにより、持っていた人脈などが途切れると困るという事で、学校支援本部が引き受けた	

	形	
6	学校支援本部に、地域の方に入っていただくのはなかなか難しく、同じ顔触れが多い	
7	人と金を学校に与えても誰かが忙しくなる、副校長が忙しくなる。ボランティアが多いのはいいがそれをコーディネートするのは誰なのか。なかなか解決に行かない	
8	学校支援本部は、本来 PTA の事務を軽減するという目的とは違うもの、地域の人、皆が子供と関わっていきたいという市民の想いを大事にしながら作っていくのがこれからの清瀬の教育の在り方だと思う	
9	既存の組織（円卓会議など）とコミュニティスクールや学校支援本部がどう関係をもっていくのかを考えていかないと組織や運営が混乱する、実際になっている自治体も多い	
10	コミュニティスクールになっても、教員などはなったのは知っていても、どのように学校が変わっていくのか、小学校とどう連携するのかということがよくわかっていないところもある	地域拠点でどのような「学びの環境」を実現していきたいのかを、本日ご議論いただきたいと考えています（資料 2）
11	次年度から具体化していきますとの事だが、本年度どの線まで期待して諮問に対してやっていかなければならないのか	参考資料 1 をご参照ください